

他の共用試験との運営体制等の比較

	医学	歯学	薬学	獣医学	法科大学院
運営組織	公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 (平成17年3月発足)		NPO法人 薬学共用試験センター (平成18年10月発足)	NPO法人 獣医系大学間獣医学教育支援機構 (平成27年6月発足)	未定
準備組織	任意団体 共用試験実施機構 (平成14年4月発足) ※「臨床実習開始前の学生評価のため の共用試験システムに関する研究班」が 大学関係者で設置され、その下に「臨床 実習開始前の学生評価のための共用試 験システムに関する研究専門委員会」が 設置(平成12年11月) ※平成13年4月に、全大学参加による会 議を4回開催、当該研究班を中心に検討 が行われ、第1回の試行を14年に実施 することを決定。		日本薬学会薬学教育改革大学人会議 ・共用試験あり方委員会 ・共用試験内容検討委員会 (平成16年6月発足) 全国薬科大学長・薬学部長会議 ・薬学共用試験センター準備委員会 (平成18年1月発足)	共用試験委員会 (全国大学獣医学代表者会議の下部組 織(平成23年9月発足)。平成22年9月 に組織された準備委員会が母体。)	共通到達度確認試験システムの構築 に関する調査検討会議 (平成27年1月～)
政府の提言	「21世紀における医学・歯学教育の改善 方策について(平成13年3月(医学・歯 学教育の在り方に関する調査研究協力 者会議))」 → 医学及び歯学教育のモデル・コアカ リキュラムが提示され、それに基づく臨床 実習開始前の学生の適切な評価システ ムの構築のための大学間の共用試験シ ステム創設が提言		「薬学教育の改善・充実について(最終 報告)(平成16年2月 薬学教育の改 善・充実に関する調査研究協力者会 議)」 「薬学教育の改善・充実について(答 申)(平成16年2月 中央教育審議 会)」 → 実務実習を行う学生の質の確保の ため、共用試験の実施を提言	「獣医学教育の改善・充実に関する調 査検討協力者会議とりまとめ(平成23 年5月)」 → 具体的方策として、「共用試験の導 入に向けた検討」が提言	「中教審未修者WG(平成24年10月)」 → 未修者の質の保証の強化のため、 共通到達度確認試験の導入が提唱 「法曹養成検討会議とりまとめ(平成25 年6月 内閣官房)」 → 既修者への適用及び司法試験短 答式試験の免除について言及 「共通到達度確認試験等に関する調査 検討経過報告(平成25年11月中教審 WG)」 → 共通到達度確認試験の基本設計を 提言
トライアル 回数	4回(平成13年度～16年度)		3回(平成18年度～20年度)	3回を予定(平成25年度～27年度)	少なくとも4回を予定(平成26年度～)
本格実施	平成17年度～		平成21年度～	平成28年度～(予定)	平成30年度以降
問題形式	CBT	CBT	CBT	CBT	マークシート方式(第1回試行試験)
受験料	28,000円	28,000円	25,000円	未定	未定